

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいずジュニア横手(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		令和8年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		令和8年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ミーティングや担当者会議を通して児童の様子や情報を共有し、統一した対応ができるようにしている。 また、保育士・理学療法士それぞれの立場から意見を出し合い、多方面から支援することができている。	ミーティングでは必ず職員一人一人が発表し、個々の考えや思いを話しやすい雰囲気づくりに配慮している。 児童の課題に対して多方面から考察し、対応や支援策、プログラム内容等を考えるようにしている。	課題に対する取り組みをしてみてもうだったか、振り返りや相談、改善を繰り返し、児童に合った支援・療育が提供できるよう目指す。 多職種連携を活かし、固執した考えや対応にならないよう心掛ける。
2	児童発達支援・放課後等デイサービスの2つの教室を使い分けたり共有したりしながら、有効的に使用することができている。 学校休業日は放デイ児童と同室になる時間があるが、互いに影響されることなく活動できている。	平日は2つの教室を「運動」と「視覚覚トレーニング」に分けて利用している。 利用児の多い日や個別対応でグループが複数できる場合は、パーテーションで仕切ったり活動時間をずらしたり等の工夫をしている。 放デイ児童には、児発児童の活動があることの説明をすることで協力を得られ、トラブルなく利用できている。	引き続き、状況に合わせて教室利用の工夫をしていく。 児童の様子を丁寧にとらえてグループ分けをし、少しずつ「できた」が増やせる安心安全な環境づくりをしていく。
3	避難訓練、虐待防止等の研修を行い、日常の児童対応や緊急時の避難方法等の安全面について、訓練や確認ができている。	定期的な研修、避難訓練の実施、緊急時の連絡先、持ち出し品の確認や用意をしている。 各種研修や訓練を通して、気付いたことや改善点などについて話し合い、安全面に十分注意していく。	社内外の様々な研修に積極的に参加し、安全に安心して過ごすための環境作りに努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	みらいずのプログラムを選択していただき、利用児童が増えてきているのは嬉しい反面、希望する利用回数を十分満たせることが難しい。	利用児童(特に年長児)が多いことと、個別対応児が増えてきたことで指導員の人数が必要になる為、日によって制限をかける必要がでてきた。	希望利用日の移動やキャンセル待ちをお願いする時は、保護者様に丁寧に説明を心がけ、感謝を伝えると共に利用が途切れないよう次に繋がる調整をしていくことで、安心感が持てるようにする。 カレッジ横手との情報共有や連携を続け、状況に応じて児発利用に繋げていく。
2	保育園(幼稚園・こども園)、小学校との連携や情報共有の機会が持てていない。	児童について送迎時に先生方からお話を伺ったり、みらいずの様子をお伝えすることはできているが、訪問して担当者会議等を行うことができていない。 (相談員、教育委員会主催会議には参加できている)	園や学校訪問を計画し、双方からの支援の連携ができるようにしていきたい。
3	ミーティングやケア記録、書類作成等の時間確保が難しい。	児発・放デイ共に利用児童と個別対応児が多くなったこと、送迎範囲が広いことが主な要因と考えられる。 午前・午後共にミーティングはあまり時間が取れないことが多い。	業務効率の見直し。 職員個々の役割を把握・実行する中で、声を掛け合い協力しながら、意識的時間確保の工夫に努める。 児発のグループ分けや活動内容にもよるが、必要以上の職員配置になっていないか見直し、状況に合わせて対応する体制をとりながら、余裕をもつことで記録書類等の業務ができるようにする。